

令和8年(2026年)1月16日外部評価実施
少路地域包括支援センター(北中部圏域)

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】 令和7年12月1日現在

圏域人口:64,146人(前年12月1日時点 64,291人)
高齢者人口:16,866人(前年12月1日時点 16,671人)
高齢化率:26.2%(前年12月1日時点 25.9%)

【圏域の地域特性】

豊中市の北中部に位置しており、商店街や遊興施設等人が自然に集まれる場がなく、路線バスに乗ることができれば、千里中央や豊中方面に出かけられるが、バス停まで出かけられなくなると生活が大きく縮小します。交通の便がなく、坂道も多い圏域であることから、住民個々の介護予防の意識は高く、他圏域と比べフレイルの割合は低いです。東豊中校区にある市営西谷住宅の建て替えは順次進行中。一番早くても2027年4月完成予定。高齢者が多い住宅でもあり、転居や住み替えが決まっていない方も多いです。

【医療・介護資源】

圏域に総合病院が1カ所、クリニックが37カ所、うち訪問診療を行っているクリニックは14カ所、介護施設は特養施設3カ所(うち地域密着型特養1カ所)、居宅介護支援事業所10カ所、デイサービス・デイケア34カ所うち地域密着型のデイサービスは12カ所、認知症対応型の通所介護は1カ所あります。グループホームが4カ所、小規模多機能型施設が4カ所あります。完成の時期は未定ですが有料老人ホームが2カ所建設中です。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

公的な機関として、公正、中立な対応を行います。住宅改修の業者の相見積もりの実施や、要介護認定者のプラン作成にあたり選定した居宅介護支援事業所を少路包括内で記録し共有しました。ケアマネジャーが3名おり、要支援のプランをまず包括内で担当しました。スタッフ全員にパソコンの支給をし、zoomを用いての会議、ミーティングを行いました。毎朝のミーティングで昨日の総合相談のケースを共有し、毎月の少路包括会議でもzoomを活用し、地域で得た情報等を全職員にフィードバックに力を入れました。

【特に力を入れて活動している点】

・FacebookやXの発信を継続しています。担当で1ヶ月に1～2回は必ず発信するようにして少路包括の啓発を行いました。

・居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの連携強化を図るため、ケアマネほっとミニを2ヶ月おきに開催し、今年度は管理者等主任ケアマネジャーの方に集まってもらいました。指導方法の悩みや介護保険の情報共有、ケースの相談、又は愚痴を吐き出してもらう場として設けました。

・オレンジカフェの立ち上げに時間をとられ、担当者の負担が強かったことで、少路独自にオレンジカフェの立ち上げマニュアルを作成しました。立ち上げのやり方を統一することで役割分担を図ることができ、担当者の負担を減らすことができました。現在オレンジカフェは10か所立ち上がっていますが、立ち上がったおおよそ8割のカフェがマニュアルを作成してからであり、結果、全包括で一番多い圏域となっています。

【活動の中での課題やその解決策】

(課題)

圏域もしくは近隣で連携を図っていた居宅介護支援事業所の閉鎖に伴い、委託でお願いできる事業所が少なくなってきました。

(解決策)

ケアマネほっとミニの充実を図ります。新規で立ち上げた事業所の情報をキャッチし、少路包括のケアマネほっとミニの案内を行い、参加してもらうことで新規事業所との関係性を深めていき、委託プランの依頼につなげていきます。

総評

【特徴的な取組内容】

① 地域包括支援センターの主任介護支援専門員が主体的に介護支援専門員の勉強会・研修の場に関わることで、参加者の自発的な姿勢を引き出すとともに、ニーズの高い内容になっています。

② オレンジカフェの継続した後方支援を行うことにより、個々のカフェのニーズをふまえた講演や取組み等も取り入れられ、継続したカフェの維持につながっています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

① 重層的支援のネットワークが構築されつつあり、様々なケース等に迅速に対応できる体制づくりの推進を期待します。